

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名（三重県立杉の子特別支援学校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校の姿		一人ひとりの可能性を伸ばし、生きる力を育む学校
(2)	育みたい資質・能力（育みたい児童生徒の姿）	○自立と社会参画をめざし、主体的に取り組む子ども ○自己肯定感と他者を思いやる気持ちを持ち、自他の命を大切にし、人権感覚あふれる子ども
	ありたい教職員の姿	○多様化、複雑化する社会に対応し、学び続ける姿勢を持った教職員 ○豊かな人権感覚を持ち、子どもの成長を保護者と喜び合える教職員 ○知的障がい教育および肢体不自由教育における高い専門性を有する教職員 ○計画的で柔軟かつ組織的な対応ができ、教育・福祉・医療等関係機関と連携した教育活動に取り組める教職員 ○教育公務員としての責務を自覚し、自らを律することができる教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<児童生徒> 様々な体験的な学習や自分自身が活躍できる経験を通して、将来、自分らしく豊かに生活するために必要な力を、楽しく身に付けたいと望んでいる。 <保護者> 安全安心な学習環境の維持と児童生徒一人ひとりの特性に応じた教育の充実、卒業後の進路実現を期待する声が多い。 <地域・関係機関> 鈴鹿亀山地域の特別支援学校として、地域の特別支援教育の推進に向けたセンター的機能を充実させてほしい。
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	<保護者> 安全安心な学校運営と自立活動の充実、知的障がい教育の小中高の連続性を維持してほしい。 <地域の学校> 特別支援教育に係る情報提供や交流教育を進めてほしい。 <地域の関係機関(企業・福祉施設等)> 連携・協力するための情報提供をしてほしい。 <地域社会> 共生社会の実現に向けて、ともに活動できる機会を提供してほしい。
	連携する相手への要望・期待	<保護者> 規則正しい子どもの生活と子どもの心に寄り添う子育てに協力してほしい。 <地域の学校> 進学に係る情報提供や交流及び共同学習の受入と充実に協力してほしい。 <地域の関係機関(企業・福祉施設等)> 学校の教育活動を理解し、卒業後を見据えた連携を継続してほしい。 <地域社会> 学校の教育活動を理解し、児童生徒が活躍できる場を提供してほしい。
(3) 前年度の学校関係者評価など		・キャリア教育において、地域からの意見を工夫して取り入れる必要がある。 ・避難訓練などの取組が子どもたちの力になっている。 ・人権教育カリキュラムに基づき、人権教育を進めてほしい。 ・センター的機能を活用して、早期からのキャリア教育を含めた特別支援教育の重要性を発信していく必要がある。 ・地区回覧板を活用するなど、学校の情報発信の工夫が必要である。 ・児童生徒への接し方について、定期的に教職員が振り返っているところが良い。引き続き、子どもたち中心の教育活動を行ってほしい。

(4) 現状と課題	教育活動	・学習指導要領に則した教育課程並びに年間計画を策定した。これに基づき、教科学習や自立活動を充実させる必要がある。 ・学校体制が変わるなか、これまで以上に系統的なキャリア教育の推進が求められている。地域との連携を強化し、学びの場を広げ、児童生徒のキャリア発達を促進したい。 ・児童生徒の発達段階に応じた人権教育カリキュラムを作成した。これらに基づいた人権教育を推進し、自ら周囲の者に相談する力や人権を守るための実践行動をとれるよう、命を大切にする教育を一層推進する。
	学校運営等	・相談体制や家庭支援を充実させ、児童生徒保護者の思いに寄り添い、安全安心な学校づくりに取り組む。 ・スクールボランティアの充実や地域とのつながりの強化により、地域と協働した学校づくりを推進する。 ・児童生徒の増加に伴う教室やスクールバスの確保、給食施設等の整備が急務である。 ・管理職がリーダーシップを発揮し、ワークシェアの推進、組織全体での応援体制が取れるよう仕組みづくりに取り組む。

3 中長期的な重点目標

教育活動	1 学習指導要領に則した授業 ・学習指導要領に則した教育課程に基づく授業実践に取り組み、教科学習を充実させる。 2 キャリア教育の充実 ・児童生徒の発達段階に応じ、地域と関わる学習や作業学習、実習や職業体験学習を通して自己肯定感を高め、キャリア発達を促進させる。 3 命を大切にする教育の充実 ・人権教育カリキュラムに基づいた人権教育を推進し、自己肯定感を育む教育と児童生徒のつながりを確かなものにする仲間づくりに取り組むとともに、知識的側面を強化した人権学習や葛藤のある人権学習を通して、実践行動力を育成する。 ・いじめを未然に防止するための児童生徒の主体的な活動の充実に取り組む。 ・発達段階に応じた性に関する指導、保健栄養指導の充実に取り組む
学校運営等	4 信頼される学校づくり ・相談体制と家庭支援を強化し、児童生徒保護者の思いに寄り添った指導に取り組む。 ・教職員の研修の機会を保障し、教職員の専門性の向上をめざす。 ・「信頼される学校であるための行動計画」に基づき、年間を通じたコンプライアンス研修、風通しの良い職場づくりに取り組み、不祥事を根絶する。 5 安全安心な学校づくり ・バス運行会社と連携し、安全なスクールバス運行に取り組むとともに、自主通学生の通学路点検を実施し、児童生徒の登下校の安全の確保に取り組む。 ・児童生徒の人間関係をていねいに見つめ、いじめの認知に努めるとともに、いじめに対して迅速かつ組織的に対応する。 ・医療的ケアを充実させ、医療的ケア児が安全安心な学校生活を送れるよう取り組む。 ・給食数増加と食形態の複雑化に対応した安全安心な給食の提供に取り組む。 ・災害備蓄品の整備や災害本部設置訓練、保護者引渡し訓練に取り組む、災害対策を充実させるとともに、危機管理マニュアルの整備・更新を行う。 6 センターの機能の充実 ・本校・分校コーディネーターによるチーム支援や夏季公開講座等に取り組む、地域の特別支援教育を推進する。 ・教育相談、就学支援委員会等の機会における情報収集と関係機関と連携した支援体制の構築に取り組む。 7 地域協働の取組 ・自治会の行事や地域の人権フェスティバル等に参加し、地域啓発に取り組む。 ・進路渉外担当を中心とした地域との連携を促進し、学校課題の洗い出しに取り組む。

	・スクールボランティアによる協働体制作りに取り組む。 ・保護者、地域への情報発信を充実させ、開かれた学校づくりに取り組む。 8 働きやすい職場づくり ・管理職がリーダーシップを発揮してワークシェアを推進し、業務の偏りの解消に努める。 ・次世代育成に取組み、持続可能な学校組織づくりを推進する。
--	---

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1 学習指導要領に則した授業	(1) 令和6年度教育課程及び年間計画に基づき、授業実践を行う。 【成果指標】 ・教職員アンケートにおいて「年間計画に基づき授業実践ができたか」達成率80%以上 (2) 観点別学習状況の評価を明記した指導略案を作成し、教科学習の充実を図る。 【活動指標】 ・指導略案を年1回作成して実施 (3) 令和7年度教育課程、年間計画の見直しを図る。 【活動指標】 ・教育課程検討委員会による見直し	・100% ・学部研修にて全クラスにて指導略案を作成して実施 ・適宜委員会を開き中高等部の教育課程を改訂	◎ ○
2 キャリア教育の充実	(1) 小中高の系統的な取組を推進し、卒業後の進路実現を目指した指導の充実を図る。 【活動指標】 ・現場実習の実施 高2で1回、高3で2回 【成果指標】 ・高等部生徒アンケートに回答できる生徒の「卒業後のイメージを持つことができた」80%以上 (2) 地域生活を体験し、児童生徒の自己実現を図る学習を充実させる。 【活動指標】 ・希望する児童生徒の居住地校交流を実施する。	・高2で1回、高3:2回実施 ・100% ・17名の児童生徒が実施	◎

	・小中学部における地域小中学校との共同及び交流学习に取り組む。 【成果指標】 ・教職員アンケートにおいて「地域小中学校との共同及び交流学习において、お互いのかかわりを深める機会とすることができたか」80%以上 (3) 進路実現に向けて、保護者と連携した取組を推進する。 【活動指標】 ・保護者対象進路説明会を実施する。 ・進路だよりによる情報発信 年3回以上 ・キャリア教育プログラムの保護者理解を促進する 【成果指標】 ・保護者アンケートで「学校は児童生徒の進路実現に向けて保護者と連携して取り組んでいる 80%以上	・3小学校で5回実施 ・3小学校の平均84% ・4回実施 ・4回発行 ・懇談会にて保護者に伝えた ・74.4%	
3 命を大切に する教育の 充実	(1) 児童生徒の発達段階に応じた主体的実践力を育む人権学習に取り組む。 【活動指標】 ・人権教育カリキュラムに基づく授業実践 年3回 ・人権教育だよりを年3回発行 【成果指標】 ・教職員アンケートにおいて、「児童生徒の段階に応じた人権教育の取組ができたか」80%以上 (2) いじめや暴力を許さない態度を養う指導を充実させる。 【活動指標】 ・児童生徒会によるいじめを許さない取組 年2回 (3) 発達段階に応じた性に関する指導、保健栄養指導を充実させる。 【活動指標】 ・自分も他者も大切にする性に関する指導実施 年1回 ・自ら健康を維持増進する態度を養う保健栄養指導実施 年1回 【成果指標】 ・教職員アンケートで、「児童生徒の日常生活に変化が見られた」60%以上 ・児童生徒アンケートで、「健康について楽しく学べた」80%以上	・人権週間（年3回）に実施。 ・学期に1回発行 ・97.7% ・5・11月に実施 ・11月に実施 ・7月に実施 ・86.4% ・実施できず	◎

改善課題
(年度末に記載) ○授業 学習指導要領に則した年間計画は一定整理された。児童生徒の自立と社会参画に向けた、主体的な学びを実現する授業改善が望まれる。 ○キャリア教育 居住地校交流および学校間交流については、活動指標・成果指標ともに達成できた。単発やその場限りの活動とならないように、引き続き、双方の子どもたちが主体的に活動に取り組めるよう事前に十分検討すること、必要な改善や計画の見直しを行い、交流教育を推進する必要がある。 ○命を大切にせる教育 児童の発達段階や機会を捉えて性の指導や、児童生徒会活動をとおしての活動や情報発信に取り組んだ。引き続き、人権教育カリキュラムに基づき、技能的側面の習得を強化し、自分を大切にし、お互いを認め合い、良好な人間関係を形成する取組を推進する。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例) 「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
4 信頼される学校づくり	(1) 家庭相談の機能を強化し、迅速な対応に取り組む。 【活動指標】 ・校内支援会議を開催し、組織的に対応する。 ・外部関係者会議を開催し、支援体制強化に取り組む。 【成果指標】 ・保護者アンケートで、 「学校は問題に対して迅速に対応している」80%以上 「学校は相談しやすい雰囲気がある」80%以上 (2) 教職員の専門性の向上に取り組む。 【活動指標】 ・セラピストによる校内支援に取り組む。 【成果指標】 ・校内研修後の教職員アンケートで「校内研修で学んだことを日々の実践に活かすことができた」80%以上 ・個人研修(校外)年2講座以上の達成率100% (3) 教職員のコンプライアンス意識の向上に取り組む。 【活動指標】 ・不祥事防止研修プログラムの実施 年14回 ・コンプライアンスミーティングの実施 年3回	・10回開催 ・5回開催 ・63.9% ・84.6% ・ST・PTによる支援 ・PT・OT相互支援(他校から)等 ・96% ・100% ・14回実施 ・1回実施	◎

	【成果指標】 ・ 杉の子特別支援学校における不祥事0回 ・ 研修満足度 80%以上	・ 0回 ・ 100%	
5 安全安心な学校づくり	(1) 登下校の安全安心の確保に取り組む。 【活動指標】 ・ スクールバス委員会による教職員、添乗員、運転手の連携強化 ・ 令和7年度のスクールバス運行計画の整備 【成果指標】 ・ 下車後のスクールバスの児童生徒降ろし忘れ0件 (2) いじめに対する迅速かつ組織的な対応を行い、いじめの早期解消に取り組む。 【活動指標】 ・ いじめアンケートを年3回実施する。 ・ いじめが疑われる場合は、迅速かつ組織的に対応 【成果指標】 ・ いじめ重大事態0件 (3) 安全安心な給食の提供に取り組む。 【活動指標】 ・ 給食献立委員会による給食調理業者との連携 必要に応じて 【成果指標】 ・ 給食への異物混入、食物アレルギー関連事故 0件 ・ 食形態の多様化、給食数の増加への対応策完了 (4) 危機管理体制を充実させる。 【活動指標】 ・ 不審者対応訓練の実施 年1回 ・ 救命救急法講習会の実施 年1回 ・ アレルギー対応訓練の実施 必要に応じて ・ てんかん発作時の対応訓練（添乗員）を実施 年1回 ・ 医療的ケア児の緊急対応訓練の実施 一人につき年1回以上 ・ 児童生徒失踪対応訓練の実施 年1回 ・ スクールバス児童生徒引渡し訓練の実施 年2回 【成果指標】 ・ 訓練結果を令和7年度危機管理マニュアルに反映 ・ 教職員アンケートにおいて、 「不審者対応の仕方がよく分かった」80%以上 「救命救急についての理解が深まった」80%以上	・ 毎月開催 ・ 整備済 ・ 0件 ・ 学期に1回実施 ・ 認知件数0件 ・ 重大事態0件 ・ 実施済み ・ 異物混入（分校）1件 ・ 対応策完了 ・ 5月実施 ・ 6月実施 ・ 1回実施 ・ 1回実施 ・ 1回実施 ・ 4月実施 ・ 未実施 ・ 反映済み ・ 100% ・ 100%	◎
6 センターの機能の充実	(1) 本校・分校特別支援教育コーディネーターによるチーム支援を強化する。 【活動指標】 ・ 地域の校・園の教育相談の充実	・ 地域校・園 来校53回 派遣86回	

	・かがやき特別支援学校と連携した地域支援の充実 (2) 地域の特別支援教育の推進を図る。 【活動指標】 ・夏季公開講座の開催 年1回 ・教職員体験研修の開催 年2回 ・オンライン相談会の開催 年3回 【成果指標】 ・夏季公開講座の参加者アンケートにおいて、「特別支援教育の理解が進んだ」80%以上 ・教職員体験研修の参加者アンケートにおいて、「特別支援教育の理解が進んだ」80%以上 ・オンライン相談会の参加者アンケートにおいて、「特別支援教育の理解が進んだ」80%以上	・5回 ・分校で実施 ・9・11月実施 ・2回開催 ・96.8% ・100% ・希望者なし	
7 地域協働の取組	(1) 地域活動に参加し、特別支援教育の理解啓発を促進する。 【活動指標】 ・ぬくたいフェスタへのポスター参加 (2) 地域協働活動を推進し、学校活動を充実させる。 【活動指標】 ・スクールボランティアによる地域協働活動 年5回 (プール設置・解体、学習発表会舞台設置・解体、校外学習) 【成果指標】 ・参加者アンケートにおいて、「また機会があれば積極的に参加したい」もしくは「また参加してもよい」80%以上 (3) 保護者・地域への情報発信により、開かれた学校づくりを推進する。 【活動指標】 ・学校だよりの発行 年3回 ・ホームページの更新 月1回以上 ・授業参観の実施 年3回⇒2回(修正) 【成果指標】 ・新メール配信システムの導入完了 ・授業参観後の保護者アンケートにおいて、「学校での学習の様子がよくわかった」80%以上	・小学部参加 ・8回 ・「来年度以降も参加したい」80% ・4回発行 ・月1回以上更新 ・2回実施 ・完了 ・81.6%	◎
8 働きやすい職場づくり	(1) 年間を通じて職場環境や業務についての意見を反映し、風通しの良い職場づくり、働きやすい環境づくりに取り組む。 【活動指標】 ・オフサイトミーティングの開催 年1回 ・教職員満足度調査の実施 年1回	・7月に実施 ・11月に実施	

	【成果指標】 ・教職員アンケートにおいて、 「校務へのやりがい、楽しさを感じている」 80%以上 「働きやすい環境づくりが進んでいる」 80%以上 (2) 学校安全衛生委員会による安全安心な職場環境づくりに取り組む。 【活動指標】 ・学校安全衛生委員会の開催 月1回（年12回） ・衛生管理者による職場巡視 週1回（年48回） ・産業医による職場巡視 2か月に1回（年6回） (3) 会議の効率化と定時対校日の確実な実施に向けて取り組む。 【活動指標】 ・定時対校日の設定 月1日 ・設定した日の定時退校できた割合 90%以上 ・ノー会議デーの実施 年25回 ・放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 90%以上 【成果指標】 ・時間外在校等時間が年360時間を超えるのべ職員数0人 ・時間外在校等時間が月45時間を超えるのべ職員数0人 ・時間外在校等時間 月平均30時間以下 ・年次休暇取得日数 平均12日以上	・76% ・75% ・月1回開催 ・週1回実施 ・2か月に1回実施 ・月1日14回 ・97.5% ・23回 ・99.0% ・0人 ・6人 ・3.8時間 ・13.6日	
--	---	--	--

改善課題

○信頼される学校づくり

校内支援会議や外部関係者会議を開催し、組織的な対応や支援体制の強化に取り組んだ。引き続き、保護者や地域との連携を図り、信頼される学校づくりの推進に努める必要がある。

○安全安心な学校づくり

給食の異物混入（分校）があったことから、教職員の目視も含めた未然防止策を徹底する必要がある。

○地域協働の取組

ぬくたいフェスタ（鈴鹿市）の缶バッチデザインの作成に児童生徒が取り組み、応募したところ小学部児童のデザインが採用された。引き続き、地域の取組に参加し、鈴鹿・亀山地域にある特別支援学校としての理解促進に取り組む。

○施設・教職員

老朽化する施設対応、トイレ不足、教職員の確保が急がれる。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	・セラピストのような専門職を活用した取組は今後とも進めてほしい。 ・地域協働活動を充実させるためには、学校の取組や地域にしてほしいことを発信するとよい。
----------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	○授業 生徒の自立と社会参画に向けた、主体的な学びを実現する授業改善に取り組む。 ○キャリア教育 双方の子どもたちが主体的に取り組める交流及び共同学習に取り組む。 ○命を大切にする教育 人権教育における機能的側面の習得を強化し、児童生徒の実践行動できる力を育成する。
学校運営についての改善策	○安全・安心な学校づくり 安全な給食の提供に向けて、教職員の目視も含めた未然防止策に取り組む。 ○信頼される学校づくり 保護者や地域と連携した、組織的対応や支援体制の強化に取り組む。 ○地域協働 ぬくたいフェスタへの主体的参加を検討する。 ○施設・教職員 老朽化する施設対応、トイレ不足、教職員の確保に取り組む。